

平成26年度 ちばっ子「学力向上」総合プラン《評価表》

アクション1 「教師カトップ」チャレンジプラン（「授業力向上」の視点）

◎教師力向上の取組の成果が上がっているといえるか

評価（a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である）

評価の観点		学力向上PT会議による評価		総括 評価
事業番号-事業担当者評価		評価コメント	評価	
ア	教職員研修の改善が図られ充実したものとなっているか 11-a 13-a	初任者を含め、若年層を対象にした教職員研修が継続的に実施されるようになり、各アンケートからも肯定意見や充実した研修との回答を得ている。	a	B A B C 進展が概一部 図られて進展 られていると どまっている
イ	教師力向上をけん引する人材の育成・発掘ができていますか 12-b 16-b 17-b	「魅力ある授業づくりの達人」の新たな教科・領域等の認定がなされるなど、専門的な指導力を高める取組がなされた。	b	
ウ	授業力向上を図る取組の成果が上がっているといえるか 11-a 12-b 13-a 14-b 17-b	「若手教員育成推進員」「授業練磨の公開日」の取組や、「理科の観察・実験指導」の推進事業の研究協議会など、地域に根ざした研修や相互の授業参観など、多様な研修の実施により、成果が見られる。	b	
エ	教師力・授業力向上のための資料提供は十分にできているか 15-b 17-b	レシピ、指導案、理科教員向け指導資料集等、教員向けの資料及び、A c t 2の児童向けの資料集の作成も含め充実することができた。	b	
コメント 教師力向上のための人材育成、研修の充実が図られている。				

◇学力向上推進会議委員の意見

観点ア 評価は妥当である（11・13）

- ・研修の必要性、重要性は高く、研究内容に対する受講者の満足度は高い。
- ・高等学校は、教科等によって求められる専門性が異なり、一律の内容による研修には参加しにくい傾向がある。専門分野別の研修ができるとその意義が高まる。
- ・土曜日に授業を行っている自治体では、夏期休業中に週休を取得するため、研修日の確保が難しい。
- ・この研修によって、授業が変わり子どもが変わることが大切である。アンケート結果は、受講者の感想だけなので、引き続き経過観察による検証が必要である。
- ・研修の受講者アンケートが評価の指標になっているが、それぞれの質問項目を詳細に分析することも大切である。例えば、「受講した研修を地域に還元する」という質問の肯定的な回答が低いことは課題である。
- ・10年経験者研修は、免許更新制度との重なりを生じやすいので、可能であれば再検討ができるとよい。

観点イ 評価 aに近い b (12・16・17)

- ・「魅力ある授業の達人」のように優れた指導者を発掘し、その授業を参観することは、教師力の向上に大変役立つものであるといえる。(全員一致)

観点ウ 評価は妥当である (11・12・13・14・17)

- ・今年、高等学校の道德の授業を県教委が見るという取組があったが、授業者は、みな指導案をつくり準備していた。授業を見られることは、教員の意識改革や授業改善につながる。
- ・お互いに参観し合うことは大切だが、時間の確保が難しいため授業錬磨の公開は参観者が少ない。地域ごとに学校を越えて授業を見合う機会を意図的に設定する必要がある。

観点エ 評価は妥当である (15・17)

- ・「私の授業レシピ」は、とても充実したコンテンツとなっている。(全員一致)
- ・Wakaba (授業レシピが閲覧できるデータベース) のアクセストップ10が全て高等学校である。高等学校ではこのデータベースがよい情報源となっていることが伺える。
- ・全教員への周知に、県教委だけでなく市町村教委や学校管理職も努める必要がある。
- ・「授業力の『見える化』」(授業づくりの達人の授業を収めたDVD)のように画像になっているものも利用しやすい。他県では、教育委員会から配信しているところもあるので、紙ベースの資料だけでなく、今後は動画での資料提供も検討できないか。

アクション2 「子どもたちの夢・チャレンジ」サポートプラン（子どもたちの学びの視点）

◎子どもたちの学習を充実させるための取組の成果が上がっているか

評価（a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である）

評価の観点		学力向上PT会議による評価		総括 評価
事業番号-事業担当者評価		評価コメント	評価	
ア	子どもたちのための学習資料は充実しているといえるか 21-b 22-b	「学びの突破口ガイド」の冊子の完成、「ちばっ子チャレンジ100」のWeb掲載、「ちばのやる気」学習ガイドのWeb改修を含め、資料の完成学年数や内容の充実ができた。	b	B A B C 進 概 一 展 ね 部 が 進 展 図 展 が 展 ら 展 が 展 れ ら れ 展 て ら れ 展 い ら 展 る
イ	子どもたちのために作成した学習資料の活用状況はどうか 21-b 22-b 23-b	積極的な周知に努め、どの資料についても何らかの形で活用している学校が9割以上の実績となってきた。	b	
ウ	子どもたちの学習意欲を高める調査・研究・指導がなされているか 24-a 25-a	学習サポーターによる個に応じた指導等により、学習意欲が高まる取組がなされている。 SSH指定校の理数教育推進の取組や理数教育の成果を競う「科学の甲子園」等の実施状況により、学習意欲の向上を図る指導がなされている。	a	
コメント 資料のさらなる活用に向け、活用事例を紹介するなど、取組促進が必要である。				

◇学力向上推進会議委員の意見

観点ア 評価は妥当である（21・22）

- ・「ちばっ子チャレンジ100」については、1・2年生の資料の完成をもってAとなるだろう。

観点イ 評価は妥当である（21・22・23）

- ・小学生版の「ちばっこチャレンジ100」は保護者も活用しやすい。中学生向けの「ちばのやる気」学習ガイドは、先生によって活用状況が異なる。家庭でも使えるようにすれば、さらに活用できると思う。利用向上の可能性はある。
- ・どの事業も保護者や地域によって差がみられるので、より周知を行ってほしい。

観点ウ 評価は妥当である（24・25）

- ・サポーターの配置だけでなく、サポーターの活躍（独自の教材作成等）が見られる。
- ・SSHについては、指定校は限られているが、大学や企業と連携して行事を行ったり、小・中学生がその行事に参加できる体制を整備したりしており、さらに広がる可能性が見られる。

アクション3 確かな学びの礎（いしずえ）プラン

（読書活動充実と家庭学習環境づくりの視点）

◎読書活動推進や家庭学習環境づくりのための取組の成果が上がっているか

評価（a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である）

評価の観点		学力向上PT会議による評価		総括評価
事業番号-事業担当者評価		評価コメント	評価	
ア	学校図書館の充実や読書活動推進のための取組が効果を発揮しているか 31-b	優秀学校図書館の認定数が昨年に比べ増加、読書好きの子の割合の高さなど、読書活動が推進されている。高校を含めた研究協力校の読書活動の推進取組など、図書館の活用につながってきた。	b	B A B C 概ね一部の進展が図られているとどまっている
イ	家庭学習についての働きかけは十分になされているか 32-a	家庭学習サイトのバナーの設置、学習事例や学習習慣定着のための合言葉など、資料を追加掲載したことにより、アクセス数が昨年度より増加し、利用・認知度が高まってきた。 家庭学習の取組に工夫をしている学校が増加していることが伺える。	a	
コメント 取組の成果が認められてきているので、さらに周知等を行い充実を図りたい。				

◇学力向上推進会議委員の意見

観点ア 評価は妥当である（31）

- ・高等学校では「朝読」に取り組む学校が増えている。さらに、中・高校生が図書館に足が向くよう、子どもたちを呼び寄せる環境整備が必要である。
- ・学校図書館の整備状況により、活用に学校間格差が出ていることが感じられる。
- ・就学前までの環境が就学後の学習に影響することが多いので、就学前児への「家読」の働きかけができるとよい。
- ・この事業が、個人の伸びを調査しているのか、図書館の整備を目的としているのか不明であるので、その点を明確にした方がよい。

観点イ 評価aは高いのではないかと（32）

- ・コンテンツは非常に優れたものである。（全員一致）
- ・保護者への周知が図られているが、本当に学ばせたい子ども（学習困難を抱える子）に情報が届いているのだろうか、課題である。
- ・パソコンの無い家庭の子どもは、どうしたらよいのか考える必要がある。
- ・学習サポーターの活用等と連携ができないか、検討の余地がある。

アクション4 興味ワクワク「体験学習」推進プラン（体験学習による意欲向上の視点）

◎子どもたちの学習意欲を高めるための体験学習の取組が充実しているか

評価（a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である）

評価の観点		学力向上PT会議による評価		総括評価
事業番号-事業担当者評価		評価コメント	評価	
ア	子どもたちの体験学習の機会の充実が図られているか 41-a 42-a 43-a 44-a	各事業を活用した体験学習を実施した学校のアンケート結果は、大変良好な回答であり、実施校では工夫された取組が実践され、充実してきている。	a	A B C 概ね一部の進展にとどまっている 進展が図られている
イ	学校等で体験学習の重要性についての理解が図られているか 41-a 43-a 44-a	学びの「総合力・体験力」コンテストの作品数が昨年度よりも増加（70→134）している状況からも、体験学習の重要性への理解が図られてきている。	a	
ウ	体験学習により子どもたちの学習意欲が向上しているといえるか 41-a 42-a 43-a 44-a	各事業の実施状況、学びの「総合力・体験力」コンテストの応募増加や作品の内容・質から、学習意欲の向上が見られ、体験学習が子どもたちの学習意欲の向上をもたらしている。	a	
コメント 体験学習の重要性の理解や機会の充実が図られ、学習意欲向上に効果が見られる。				

◇学力向上推進会議委員の意見

観点ア 評価は妥当である（41・42・43・44）

- ・「総合力・体験力コンテスト」は、教員の力量や学校としての取組みに左右されるが、一層の周知により、末端までの広がり期待したい。
- ・「特別非常勤講師配置事業」は「人材としての本物体験」になっており、専門的な指導が受けられてよい。

観点イ 評価は妥当である（41・43・44）

- ・「総合力・体験力コンテスト」は、出品作品数が増加し、内容もさまざまな分野で学んだ知識を関連付けた体験が取り入れられていて評価できる。「総合的な学習の時間のコーディネータ養成講座」事業との連携など、事業間の相乗効果が上がっている。

観点ウ 評価は妥当である（41・42・43・44）

- ・「お兄さん、お姉さんと学ぼう」事業は小・中学生、高校生双方に得るものがある。身近な高校生と一緒に学ぶことで、小・中学生の学習意欲が高まるとともに高校生にも教員を目指す生徒の動機付けとなっており、キャリア教育の視点からも意義が高い。担任とは違う高校生の授業中の活動は、参観していても肯定的にとらえられる。

アクション5 「学力向上」検証プラン（「PDCA」の視点）

◎評価・検証システムが有効に機能し、各学校の学力向上につながっているといえるか

評価（a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である）

評価の観点		学力向上PT会議による評価		総括 評価
事業番号-事業担当者評価		評価コメント	評価	
ア	「学力向上推進会議」の充実が図られたといえるか 51-b	委員による学力向上交流会や各事業の取組について視察が積極的に実施され、充実が図られた。	b	A B C 進 概 一 展 ね 部 が 進 展 図 展 が ら 展 が れ ら 図 ら ら れ て っ て い る
イ	「学力向上交流会」の充実が図られ、各学校等において「ちばっ子『学力向上』総合プラン」の認識が広まったといえるか 52-a	各教育事務所の企画・運営の工夫により、内容も充実し、交流会の趣旨を反映した内容となってきた。分科会等を通じて、学力向上施策の浸透や指導についての意見交換など、自校へ持ち帰り学力向上への取組に役立つものとなっている。	a	
ウ	「検証協力校」において、学力向上に向けた取組が充実していたといえるか 53-b	分析ツールの全小中学校への配付、結果分析の研修会実施などにより、「検証協力校」での取組が具体的になってきた。 学力向上交流会での分科会等で実践発表を行うなど成果を上げることができた。	b	
コメント 改善に向けた取組に努め、概ね事業目的を達成することができている。				

◇学力向上推進会議委員の意見

観点ア 評価は妥当である（51）

- ・実際に事業を実践している学校等を視察する評価システムは、有効であるといえる。委員は視察による評価を重ねることで、それぞれの事業の特色や意義を把握できるようになった。
- ・一方で、自分たちが委員を務める会議を、自分たちで評価することは難しいと感じるところもある。

観点イ 評価は妥当である（52）

- ・学力向上交流会は参加者の意見が出やすい雰囲気であり、分科会も充実していた。各事務所とも県の施策を周知することを中心とする運営となり、この形式に移行されてきたことは評価できる。
- ・通常の研修会とは違い、県の事業を活用することを意識した取組（公開授業や分科会発表）がなされてきた点が評価できる。

観点ウ 評価は妥当である（53）

- ・全国学力・学習状況調査の対象となる当該学年の結果分析が行われることや毎年対象の児童生徒が違うこと等から、3年間で成果を見ていく必要がある。

<総合評価> 「ちばっ子『学力向上』総合プラン」

◎「ちばっ子『学力向上』総合プラン」は各学校における児童生徒の学力向上の取組の活性化につながっているといえるか

※ ちばっ子「学力向上」総合プランを総合評価する。

評価（a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である）

評価の観点		学力向上PT会議による評価		総括評価
事業番号-事業担当者評価		評価コメント	評価	
ア	各プランの評価が適正になされているか 全体	評価の時期の関係から、中間とりまとめとして実施せざるを得ない状況にある事業もあるため、評価の観点や検証方法の改善に努めた。	b	B A B C 概 一 進 部 展 展 が 展 図 展 ら 展 れ 展 ら 展 て 展 い 展 る 展 ま っ て い る
イ	前年度の評価を生かした今年度の改善の成果はどうか 全体	改善を図り、成果の見られた事業もある。評価指標の工夫等により、さらに改善につなげたい。	b	
ウ	各アクションを総括しての達成度はどうか 全体	各事業は、概ね満足できる状況にある。 今後、施策の方向性や学校現場のニーズに対応できるよう一層の改善を図る必要がある。	b	
コメント 周知に努めた結果、事業に取り組む学校数も増え、概ね進展が図られている。				

◇学力向上推進会議委員の意見

- ・「ちばっ子『学力向上』総合プラン」を総合的に評価することは難しい。特にプラン全体を総括してA～C評価をすると結果的に無難な「B」になってしまう。次年度は、この評価の部分を検討して改善してほしい。
- ・「総合プラン」について、千葉県以外にもこのような取組を行っている自治体があるか調べてほしい。価値ある取組なので、他県で行っていなければ広く広報してほしい。
- ・各プランについては子どもたちの活動が充実してきている。より一層の周知を図り、すべての教職員に伝わる工夫をお願いしたい。
- ・今後の中教審等の動向を見ながら刷新されると思うが、本プランは21世紀型能力にも十分対応できる内容である。「お兄さん、お姉さんと学ぼう」「ちばのやる気ガイド」「ちばっ子チャレンジ100」「学びの突破口ガイド」など、学力向上に有効な手立てが多くあるので、ぜひ予算を確保し、継続してほしい。
- ・「達人」や「小・中・高連携授業」など、ボランティア的な部分もあるので、授業実践支援として教材作成費用などの予算が確保されるとよい。
- ・学校現場は、20代と50代の教員が多い。10年経験者研修と免許更新研修なども含め、研修の在り方について検討が必要である。・前年度の改善課第を生かした評価として、今年度の成果が資料から理解できる。
- ・県の施策が末端まで伝わる方策をさらに工夫する必要がある。管理職や担当者は知っているても一般教員がどこまで理解しているかが、まだ十分明らかではない。
- ・県と小中学校の間には、教育事務所、市町村教育委員会があり、県からの情報発信がスムーズに伝わるような方策もさらに検討する必要がある。

